

令和6年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の児童（第6学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせいたします。

■実施日時：令和6年4月18日（木）

■参加者数：小学校7校 児童数 6年生 351名

1 学習の状況について

	国語	算数
(1) 全体の結果（評価）	小学校6年 全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

・教科に関する調査の平均正答率は、国語、算数ともに全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等です。（文部科学省では、±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています。）

(2) 各教科の状況について ○=平均正答率が高い問題 ●=平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め伝え合う内容を検討する。 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 ●文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。
算数	○数量の関係を□を用いた式に表す。 ○直方体の見取り図について理解し、かく。 ●球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。 ●道のりが等しい場合の速さについて時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。 ●速さの意味について理解している。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。 ●情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・全体的に無回答率の割合が、全国・県に比べて低く、また記述式の問題に対しても、全国・県と比較すると無回答率が低く、問題に対して根気強く取り組む姿勢が伺えます。
- ・評価の観点については、国語、算数ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国・県とほぼ同等と言えます。
- ・問題形式は、「選択式」「短答式」「記述式」のいずれにおいても全国・県とほぼ同等と言えます。

②各教科の状況

【国語】

- ・「漢字を文の中で正しく使う」設問では、漢字によって正答率に差があります。
- ・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使う」では、正答率が高くなっています。
- ・「文の中における主語と述語との関係を捉える」設問で、正答率が低くなっています。
- ・「目的や意図に応じて、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く等、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」では、正答率が低く、記述式の回答を苦手とする様子が伺えます。

- ・「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」設問では、正答率が高く、比較的良く理解できています。

【算数】

- ・「数量の関係を、□を用いた式に表すことができる」では、正答率が高くなっています。
- ・「直方体の見取図について理解し、かく」では、正答率が高くなっています。
- ・「速さの意味について理解している」では、正答率が低く、課題となっています。
- ・「球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、直方体の体積の求め方を式に表す」では、記述式で正答率が低くなっています。
- ・「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる」では、記述式で正答率が低くなっています。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果について（児童質問紙による意識調査から）

【○望ましい項目 ●課題とみられる項目】

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」等の項目において、肯定的な回答が全国平均を上回り、基本的な生活習慣、家庭での良好な環境が備わっていると考えられます。
- 「自分には良いところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」等の項目において、肯定的な回答が全国平均を上回り、自己有用感が高いと言えます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人が困っているときは、進んで助けている」等の項目において、高い回答率であり、規範意識が育っていると思われます。
- 「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」の項目について、全国・県平均よりも回答率が高く、約9割の児童が肯定的な回答をしており、子どもたちが良好な友達関係の中で、安心して学びに向かう環境が整っていると言えます。
- ◆普段の日に併せて土日においても、家庭学習の時間が短い児童が多い状況にあります。
- ◆新聞を読まない児童が多い状況です。
- ◆放課後や週末の過ごし方について、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている児童が全国的にも多いが、本市においても同様の傾向が見られます。

3 今後の取り組みについて（学力向上に向けて、本市において次の取組を推進します。）

■基礎学力の定着に向けて

- ・朝学習や補習の時間、家庭学習等を利用し反復練習を継続的に行い、基礎・基本の定着を図ります。
- ・一人1台端末を活用し、ドリルパークやeライブラリなどのデジタルドリルを積極的に活用し、個別最適な学びを進めていきます。

■主体的・対話的で深い学びに向けて

- ・各教科の学習等で身に付けた知識及び技能を活用し、様々な課題の解決に活用できるような機会を設け、児童生徒主体の授業を進めていきます。
- ・授業において一人1台タブレット等のICT機器を積極的に活用し、交流活動を行います。

■生活習慣や学習環境等の向上に関して

- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、ICT機器を効果的に活用していきます。
- ・富士山学習における「地域を知る学習」と「交流活動」において、地域人材を積極的に教育活動に活用しながら充実を図り、自分の住む地域に関する興味・関心を高めます。
- ・読書活動を推進します。
- ・基本的な生活習慣、家庭学習習慣の定着に向けて、家庭との連携を図ります。
- ・コミュニティスクールとして、地域と学校が児童生徒の課題を共有し解決に向け協力していきます。

自己肯定感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたち一人一人が目標に向かって輝くことができるよう、家庭と学校、地域で連携を深めていきたいと思っております。

問 い 合 わ せ 先
 富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所
 TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766